

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 5 部門第 2 区分

【発行日】平成30年10月11日 (2018.10.11)

【公開番号】特開2017-61977(P2017-61977A)

【公開日】平成29年3月30日 (2017.3.30)

【年通号数】公開・登録公報2017-013

【出願番号】特願2015-187109(P2015-187109)

【国際特許分類】

F 1 6 C 33/66 (2006.01)

F 1 6 C 19/26 (2006.01)

【F I】

F 1 6 C 33/66 Z

F 1 6 C 19/26

【手続補正書】

【提出日】平成30年8月31日 (2018.8.31)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 9】

また、フォロア軸受 1 0 は、相手部材であるトラック部材 3 0 のトラック面 3 1 の変位に追従して外輪 2 が回転自在になって運動するものである。フォロア軸受 1 0 を固定部材 2 2 に固定するには、フォロア軸受 1 0 の支持軸 1 をケース 7 のリング部 2 5 に形成された挿通孔 1 2 に通し、次いで、固定部材 2 2 に形成された取付け用孔 4 1 に支持軸 1 を通し、リング部 2 5 を取付け用孔 4 1 の周囲のボス部 3 6 に位置させる。そこで、支持軸 1 に座金 2 9 を通して座金 2 9 を固定部材 2 2 の面に当て、次いで支持軸 1 の雄ねじ部 1 S にナット 2 8 を螺入して締結する。この状態で、ケース 7 は、固定部材 2 2 に対してフォロア軸受 1 0 と一緒に固定された状態になる。通常、潤滑装置 5 をケース 7 内に配設するのは、ケーシング 3 をフォロア軸受 1 0 にセットするのに先駆けて配設するが、ケーシング 3 をフォロア軸受 1 0 にセットした後でもよいものである。即ち、フォロア軸受 1 0 において、外輪 2 とケーシングと 3 が配設された支持軸 1 は、固定部材 2 2 に形成された取付け用孔 4 1 に挿通された状態で、支持軸 1 の取付け部 1 3 を構成する雄ねじ部 1 s にナット 2 8 が螺入締結されて、それによって、フォロア軸受 1 0 が固定部材 2 2 に固定されるものである。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 0】

次に、図 7 及び図 8 を参照して、この発明によるフォロア軸受の潤滑装置の別の実施例を説明する。図 7 及び図 8 において、図 1 ~ 図 6 に示すフォロア軸受の潤滑装置の各種の部材と同一の機能を有する部材には同一符号を付してそれらの説明は省略する。この発明によるフォロア軸受の潤滑装置は、ケーシング 3 を構成するケース 7 A と蓋部材 8 A とが別々に分離される構造に形成されている。蓋部材 8 A は、ケース 7 A に形成された開口部 9 を開閉するためケース 7 A の両端に設けられた係止凸部 1 8 に係止される係合孔部 1 9 を両端部にそれぞれ備えている。ケース 7 A は、上部 2 3、両側部 4 5 及びリング部 2 5

を備えた後部 4 6 から形成されている。ケース 7 A の前部は、開口部 9 に形成されており、開口部 9 は、蓋部材 8 A によって閉鎖される形式に構成されている。潤滑装置 5 をケース 7 A の収容室 6 に配置するには、蓋部材 8 A をケース 7 A から取り外し、開口部 9 を開いて潤滑装置 5 を収容室 6 に挿通して配設する。